

サクラクオリティ
安全行動基準
(客室清掃スタッフ感染対策)

第1版

新型コロナウイルス感染症予防及び防犯防災衛生管理実践マニュアル
(緊急時対応教育訓練プログラム教材)



2022年1月5日

一般社団法人 観光品質認証協会



●客室清掃スタッフ感染対策上の客室清掃時における注意点

特にオミクロン株では、鼻腔等鼻からの感染が強く懸念されている。客室清掃時においてはマスク着用特に注意していただきたい。以下より、客室環境は既に空間にウイルス粒子が飛散している環境を前提とし、縦軸で無着用を想定すると、N95 マスク着用レベルでの防御であり且つ 2.5 時間に着目していただきたい。不織布マスクを着用しさらに外側に布マスクを着用することで 96.5%カットできるとの報告があり、N95 マスクに近いレベルとも考えることができる。二重マスクを徹底し、作業時間にも注意の上作業を行うことが望ましい。

		被感染者 被感染者が感染する目安			
		無着用	布マスク	サージカルマスク	N95
罹患者	無着用	15分	20分	30分	2.5時間
	布マスク	20分	27分	40分	3.3時間
	サージカルマスク	30分	40分	1時間	5時間
	N95	2.5時間	3.3時間	5時間	25時間

各種情報を元に、マスク着用目安として作成したものであり、オミクロン株等変異株では上記時間が短くなっている可能性があり注意が必要。
参照：米国産業衛生専門官会議実験結果資料（対オミクロン株）

【好印象事例】

- ✓ 未使用と思われるグラス類も全て撤去し洗浄している。
- ✓ 客室清掃担当者と消毒担当者を分けている。

- ✓ 次の顧客が触れるリネン類等に触れる場合には、消毒済みの手で作業を行うこと（ビニール手袋を着用し、ゴミ等の処理を先にしている場合は、手袋を取り換えている）。
- ✓ 作業時間を短縮化するため、客室内部とバスルーム作業を複数人で行っている（短時間で作業を行う場合、マスクもしていることから息が上がり、万一ウイルス汚染部屋である場合に非常に危険である。）。
- ✓ 消毒では、徹底して一方拭きであり且つ、消毒薬を十分に使用している（濡れたタオルを使用しない。タオルに消毒薬を吹き付けて作業しない。直接消毒対象部位に十分な量を近い距離で吹き付けること。）。
- ✓ ビニール手袋を着用するスタッフ、着用しないスタッフそれぞれに対する作業手順等レギュレーションを明確に設けている。
- ✓ 消毒拭き取り用リネン類は、常に乾いた状態のものを使用している。
- ✓ 床の清掃については、目だつた汚れやゴミは粘着カーペットクリーナー等で除去し、掃除機使用は最小限としている。
- ✓ 清掃用カートを収納するバックヤード等では、二酸化炭素計測器を設置し換気状況を確認している。

【注意点】

1. 清掃用ユニフォームの着用順番は、ユニフォームの上に①エプロン等、②マスク、③眼鏡やフェイスシールド（着用する場合）、④ビニール手袋である。外す順番は、①ビニール手袋、②眼鏡やフェイスシールド（着用する場合）、③エプロン等、最後に④マスクとすること。手袋は皮膚に直接ふれないようにすること。手袋の内側が表になるよう静かに外し、外し終わった手袋を、手袋をした方の手の中に丸める、手袋を外した手の指先を、もう一方の手袋の内側に差し入れ、そのまま引き上げるように外すこと。一塊となった2枚の手袋をそのまま廃棄すること。その後爪で手のひらをかきだすように爪の中も丁寧に

20 秒以上石鹼等で洗淨した後 20 秒以上十分に洗い流すこと。その後手指消毒を行うこと。ゴーグルやフェイスシールドは、外側表面は汚染されている可能性があるため、ゴムひもやフレーム部分をつまんで外すこと。エプロンは、エプロンの上半分を前に垂らし、エプロンの表面に触れないように、エプロンの裾を内側から持ちすくい上げる、折りたたんだ状態で腰ひもをとる。マスクは表面に触れないようにゴムひもをつまんで外し、ゴムひものみを掴んで廃棄すること。

2. ビニール手袋を着用する場合、手のサイズに合致したものを使用すること（蒸れる為等の理由から手より大きなサイズを着用すると、ズレて、何度も手首から位置を調整する必要がある。）。
3. 作業時に、決して作業した手で直接顔を触らないこと（眼鏡等をしておくことが望ましい。）
4. 長袖シャツ等で腕の皮膚が露出しないこと。
5. ゴミ袋内部のものを直接触らない、外に出さない（ゴミ仕訳等は換気の良い場所で行うこと）、また密閉すること。
6. マスクは、原則としてサージカルマスクを着用の上に布マスク等 2 重とすること。また、耳に掛けるのではなく、後頭部でしっかりと留め金等の機能を有するものを使用する等できつく締めること。鏡にて、マスク着用時に横の部分や鼻の部分に空間が無いことを確認すること。
7. 使用済みタオルやシーツを移動させる場合は、万一ウイルスが付着している場合を想定して、埃が舞い上がらないよう、慎重且つ丁寧に取り扱い、ビニール袋で即座に密閉すること。
8. シーツを剥がした後、中身の羽毛布団や枕に汚れがないか確認すること。汚れがある場合は、慎重に交換すること。
9. 新たなシーツに中身の布団や枕を新たな収納しセッティングする場合も、埃等

- を舞い上げないよう丁寧且つ慎重に行うこと。
10. 入室時には、十分に換気された状態であり、入室時にバスルーム扉も開放すること。
 11. 作業時には、換気ができている環境であること（顧客退出後概ね3時間以上が経過しているか、窓等を解放し換気ができていること。）。
 12. 作業時使用する拭き取り用タオル等は、腰ひも等に掛けると、ユニフォームに汚れ等付着する可能性があるため、ユニフォームには、一切作業用のタオル等をセットしないこと。
 13. 清掃や消毒時に使用するタオル等は床に触れないようにすること。
 14. 掃除機を使用する場合は、ドアを開け、十分に換気できた環境で行うこと。
 15. 清掃用カートは、万一汚染されている可能性があることから、界面活性剤等で日々消毒すること。また、使用時には、汚れたリネン類等が埃等を舞い上げないようにカバーをすること。
 16. 清掃用カートから汚れたリネン類等を出すバックヤードは、十分に換気がなされていること。
 17. 清掃時着用ユニフォームは使用の都度洗濯に出すこと。
 18. 清掃作業終了後、ユニフォームから着替えたらず指消毒を徹底して行うこと（石鹼での手洗い20秒以上、すすぎ20秒以上、その後エタノール等で手指消毒を行うこと。）